

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472800909		
法人名	中央ケアサービス株式会社		
事業所名	なでしこ大紀		
所在地	三重県度会郡大紀町崎181-4		
自己評価作成日	平成 27年 2月 18日	評価結果市町提出日	平成27年5月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigvosvoCd=2472800909-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 27年 3月 5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『我が家』のイメージを大事に、柔らかい笑顔のあふれる施設を目指しています。地域になくてはならない施設となるにはどうすべきか、引き続き模索中です。地域のイベントや依頼には、喜んで参加、対応していきます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かな山々に見守られ、四季折々の自然の表情を楽しみながらゆったりとした時間を過ごすことが出来る恵まれた環境に立地している。広い敷地の桜の木や季節の花々など、誰もが立ち寄りたくなる温かい雰囲気を出している佇まいである。利用者・家族・職員・地域から全幅の信頼を得ている代表者のもと、法人の理念『笑顔とやさしい声…。利用者の苦しみを除き楽しみを…。心と目は常に…。利用者のために…。常に現状を乗り越える…。』を地域福祉・高齢者介護の深い知識と豊富な経験をもつ管理者と全職員が共有し、日々の介護にあたっている。昼食時、『此処の食事は毎日楽しみ』と話された利用者を見守る職員の眼差しも優しく、家族からも『職員が皆、優しく明るいので訪問するのがとても楽しみ！』と感謝の声が多く届いている。家族・利用者の希望に添えるように、質の高い健康的な生活を臨機応変に対応している。地域住民や家族の訪問が日常的に行われ、利用者と一緒に買い物や行事への参加も多く、地域の認知症の拠点として、パーソン・センタード・ケア(どんな状態になっても本人が大切にされ、必要とされていると実感できるケア)を実践している優しい風が流れている事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見やすい場所に提示し、毎日唱和している。会議事項書下部に毎回印刷している。社長が出した実践への要望も掲出している。	事業所の理念としての5項目を掲示し、申し送り時に唱和しており、運営推進会議事項書にも記載している。笑顔を大切にして、機会あるごとに確認し、ケア現場での実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域イベントへの参加、ボランティア慰問、移動販売や地域での買い物などを継続して実施している。利用者ご家族とのつながりから、慰問してくださるグループが増えた。	中学の体験学習を受け入れたり、大紀町消防団の出初式を見学したり、地域の移動販売車が事業所内へ入ってくれるなど、利用者が地域と繋がりが暮らし続けられるように事業所が地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議出席者への周知、学生の職場体験の積極的受入れなど、努力している。役場からの依頼で、役職者がキャラバン・メイト養成研修を修了し、地域と連携した周知に向けて準備している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で必ず開催し、意見交換を行っている。地域の中で施設をどう生かしていくかが主なテーマになっており、これまでの所、ケアへの具体的な要求は「もっと人数を受け入れられないか」のみとなっている。	2ヶ月に1回、概ね奇数月の月曜日(13時30分～14時30分)に開催し、大紀町役場・地域包括支援センター・民生委員・地域ボランティア・家族等が出席し、情報交換や意見交換を行っている。そこでの意見をサービス向上に活かすようにしており、議事録も分り易く、きちんと作成されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議に参加いただき、現状報告し、意見を伺っている。今後の地域への周知のために、キャラバンメイト養成講座への参加を依頼されるレベルの協力関係ができています。	町主催の認知症高齢者チーム会議への参加や、役場支所への介護保険の更新手続きの際などに情報交換を行い協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の危険性をしっかりと考慮に入れながら、指導に沿った身体拘束しないケアに取り組んでいる。日中は施錠しないことなど、数年前は抵抗のあったことが、当然そうあるべきものとして実施できている。	毎年内部研修を行うことにより、管理者および全ての職員が身体拘束・言葉の拘束の内容とその弊害を認識し、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。開閉扉はいつもオープンにして利用者・家族がいつでも自由に出入り出来る様に支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習等に参加し、会議の場で周知徹底している。役職者と職員それぞれが現場に居ることも多くあり、相互に注意しあえる環境である。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習等に参加し、会議の場で周知徹底している。利用者やご家族には、サービス利用開始前の段階で、しっかりと話し合いの場を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を取っており、事前の丁寧な説明ができています。説明不足によるトラブルやクレームも無く、きちんと納得していただけているものと判断している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議での相談、プラン作成時の手紙、近況報告と要望の確認、家族代表の会議参加と苦情窓口係のお願いなど、機会を作っている。夜間の様子を見たいなどの家族からの要望にも柔軟に対応できている。	毎月、施設長からの『なでしこ大紀たより』で、現状を報告し、担当職員からも3ヶ月に1回便りに写真等を同封し、ホームを理解してもらいながら、家族が意見を言い易い雰囲気づくりに努めている。『ご家族様からのご意見・ご要望シート』を作成し、家族からの要望や意見などには、些細なことでも速やかに検討し改善する体制がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、職員会議、連絡ノート、要望票、年一回の感想文、自己評価への全員参加などの機会を設けている。 提案を受け、職員の医師への質問を受け付ける専用ファイルも作成した。	代表・管理者・職員のコミュニケーションはととも良好で、月1回の全体会議と日々のケアの現場での意見や要望は直ぐに運営に反映させるように取り組んでいる。また職員連絡票を作成し、全職員間の確認漏れがないようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員からは、主に出勤日、就業時間帯の要望が多いが、最大限に対応している。また、遠慮なく要望を出せる雰囲気を保っている。理念に基づき、知恵を出し合って職場を改善していくとの意識の共有ができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	セミナーや研修会の周知と積極的な参加を呼び掛けており、特に新人職員が参加できるように配慮している。会議では内容の報告や、看護師によるミニ勉強会の時間を必ず設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	役職者がグループホーム協議会に役員として参加しており、セミナー開催時は、会議で必ず周知している。 地域施設合同での勉強会も企画している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と家族による見学を積極的にお勧めしている。 相談と説明のための話し合いに、十分な時間を取っていただけるようお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族による見学を積極的にお勧めしている。 相談と説明のための話し合いに、十分な時間を取っていただけるようお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、施設CM、担当者らを含めた、本人を中心としたグループでの、十分な時間をかけた話し合いが継続してできている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護」が「世話してあげる」との意識になっていないか、常に気を付けている。 入居者それぞれに役割を持てるよう配慮し、「ありがとう」との感謝の声かけを欠かさない支援を、継続してできている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお知らせ、担当者からの手紙の送付、イベントへのお誘い、面会時の近況報告と写真撮影、写真を印刷しお渡しするなど、継続して機会を作る努力をしている。ご家族より「面会しやすい」との言葉もいただいた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元への買い物、行きつけの美容院の利用、墓参り、お見舞い、面会時の声かけと写真撮影、撮った写真を印刷しお渡しする、地域イベントへの参加など、出来る限りの支援を継続して行うことができている。	行きつけの美容院や地域のイベントへの参加を支援したり、家族のパン屋さんに出かけたり…。家族や親戚・知人など利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人との関係が途切れないような環境作りに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事、レク、日中それぞれに、利用者の関係性を考慮に入れた、席の配置や組み合わせの配慮、状態悪化者ケアのための部屋交換の協力依頼などができている。昔馴染みも多いため、入居者同士が助け合う光景も良くみられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などには、寄せ書きと千羽鶴を贈り、可能な限りお見舞いして様子を伺い、それを会議で報告し合うといった、フォローや支援態勢を取るための努力を継続して行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	無理に起こさない、お風呂の入浴日や時間帯の変更対応、受往診時に本人からも話をしてもらうなど、本人の意向を汲み取り、その要望に沿える支援を実施できている。	担当職員が中心になって、どんなことでも話せる関係づくりに努めている。通院支援などで職員と一緒に掛ける時間を大切にして、利用者一人ひとりの思いや意向を汲み取り支援している。またセンター方式の書類も活用できる環境整備を進めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	記録を取り寄せ、周知している。特に注意すべき点は連絡簿に記載している。 施設での様子との差異についても、即時の報告と話し合いを行えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気付き帳への記入、朝夕の申し送り、さらに申し送りを業務日誌の特記事項欄に記録することで全職員が漏らさず現状把握ができている。簡単に馴染めるものでもないが、他者との関わり合いに喜びを見出している様子もある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気づき帳の記録と受往診での医師の診察結果を基に、状況の変化に応じた会議や話し合いの開催、家族への連絡と相談、それぞれの意見の反映といった、正しい手順でプランを作成することができている。	利用者・家族からの意見やミーティングなどでの意見交換を基に課題を出し合っている。職員は担当制をとっており3ヶ月に1回モニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。変化がある場合はその都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必要な記録はしっかりとつけることができている。 受往診の結果の情報共有と医師への質問を受け付けるための専用ファイルも新たに作成し、活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	送迎時間や場所の指定、金融機関への同行希望など、即時実行可能な細かい要望には全て対応している。 夜間は寄り添いたいとのご家族の希望を尊重し、泊まり込みにも応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	得意分野の仕事をお任せする、習字の見本をお願いする、草刈りの手伝いの申し出や、畑仕事の要望に即時対応する、ボランティア慰問の方に詩吟教室をお願いする、近隣のイベントや展示会に参加する、などの支援を実施。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望通りに受診できるよう、ご家族とも協力していただきながら、全ての要望に応じている。定期往診はもちろん、突発時の連絡に休日対応して下さるなど、医師には大変な配慮をしていただいている。	利用者・家族の希望に添ってかかりつけ医と協力医の受診支援を行っているが、現在はほとんどの方が協力医の受診である。月2回、事業所協力医の往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には、休日でも連携の取れる態勢を引き続き取っていただいている。 看護師は記録・報告を確認の上で職務についており、勤務時間はもちろん会議などでも職員との緊密な連携ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時のサマリーでの情報共有と、疑問が出た場合に放置せず連絡するといった基本はしっかりとできている。 地域医療機関との横の連携を図る集まりにも役職者が参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医からの予測を受け、本人とご家族の希望に沿ったケアを実施すべく、時間を掛け、容態の変化ごとに、繰り返し意向の確認を取っている。	利用時に家族とも話し合い、状態の変化があるごとに、家族の変化にも留意して支援している。本人や家族の意向を踏まえ、協力医(24時間対応)や看護師と連携を密にとり、ターミナルケアに取り組んでいる。	『重度化した場合の対応に係る指針』・『看取りのマニュアル』等を作成され、利用者が急変した際の尊厳ある終末期のケアにおいて、職員の不安に繋がらないように、職員の技術的支援や精神的支援の体制を構築されることも期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	円滑な対応のためのマニュアルを掲示している。さらに不定期に訓練実施。個々のケースに対応するため、かかりつけ医への質問ができるファイルも新規に作成し、職員の不安を取り除いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練、協力体制、柔軟対応それぞれに、過去のレベルが維持できている。自分で歩ける方が多く、下肢筋力を維持し、繰り返し訓練に参加していただくことで、円滑な避難を行い、他ユニットに人手が割けるよう準備している。	年2回、夜間・火災・大水害等を想定して避難訓練を行っている。事業所には備蓄や井戸水もあり、災害の際は地域の高齢者の避難場所になる。地域の防災委員会に所属し、地域との協力関係を築いている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	昔馴染みの入居者も多くおり、親しさと尊重とのバランスに苦慮しつつ、笑顔と優しい声の響きを大切に、人生の先輩としての尊敬の念を持つようにしている。最近失禁が多くなったことを気にして他罰的になっている方への対応には、特に注意している。	利用者一人ひとりの人格やプライバシーを尊重することをケアの基本としている。名前の呼び方・排泄時・入浴時・居室に入る時など、利用者の気持ちに添うように優しく支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全職員が、家庭的な雰囲気づくりを意識し、実践できている。現在、半分が一年以内の入居者であり、気軽に希望を言ってもらえる信頼関係を作るべく努力している最中である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床就寝、日中のリビングへの移動、入浴時間や順番の調整、余暇活動参加など、全て本人の意向を最優先に支援することができている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪切り、髭剃りなどのチェックはもちろん、衣類は複数から選択してもらえるように配慮し、女性には化粧を楽しめる機会も設けている。散髪、毛染めは、資格のある職員が、本人の意向をうかがいながら対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のスキルを活かすため、洗い物等をお任せしていたが、衛生上の問題と他入居者からの苦情あり、以降はテーブル拭き、お盆拭きなどのみをお願いしている。席順の配慮や形状、量の要望などには全て対応できている。	調理の音や匂いで五感を刺激し、旬の食材や新鮮なものをとり入れて食事が楽しみなものになるように工夫している。楽しい会話に花が咲き、和やかな食事風景である。管理栄養士の指導のもと、利用者とメニューを決めて食欲を高めたり、食事への関心を引き出す場面づくりの工夫をしてい	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録を丁寧に取り、病状、体調、習慣、現状に沿った支援を行っている。医師からは、食事への不満から関係性を損なうことのないよう、バランスを取りながらの食事制限を指示されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な限りの自立を促しつつ、出来ない部分を支援する形を引き続き取ることができている。義歯の合わなくなった方の歯科医受診の対応も、迅速に実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の詳細な記録を基に、早め早めに声かけを行い、失敗にも責任を感じさせないような対応を心がけている。PWC設置、撤去、オムツやパットの使用の判断は、本人の心のケアを中心に考えながら、個別に支援ができています。	詳細な記録の排泄表を活用しながら、日頃の動作や習慣を活かして、可能なかぎり自立に向けた支援を行っている。トイレには表示プレートを付け、利用者が混乱しないように工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	病状に応じて、水分補給、野菜を多くとれるような献立の工夫を継続して行っている。運動を積極的に取り入れ、各種体操、散歩、レクなどの中で、自然に体を動かせるように取り組んでいる。排便の無い日数次第では、下剤服用も検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人との事前相談の上で曜日を決めており、さらに延期や拒否、シャワーのみの要望、順番への要望、入浴剤の使用などには、引き続き柔軟に対応しており、リラックスできる入浴を支援できている。	一般用と機械浴の浴室がある。時間や順番は柔軟に対応している。足湯も利用者から好評である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の掃除、整頓、空気の入替え、個々の好みに合った状況の把握、見守り、眠れない方への温かい飲み物や軽い食べ物の提供、おしゃべり相手といった、基本的かつ柔軟な支援が継続してできている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	閲覧できる服薬一覧の作成、変化の観察、医師への相談、薬の変更の周知徹底、粉末への変更依頼といった、細やかで確実な服薬支援を継続して行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に状況を把握し、施設の仕事の手伝いや、外出、手芸、絵画、書、足湯、器具運動、カラオケなどの日常支援を実施。生涯学習の観点から、毎月の詩吟教室を慰問の先生にお願いし、開催している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、外泊、外食、買物、墓参、ドライブ、イベント参加など、変わらず支援、努力ができています。玄関前のベンチも、日光浴に有効利用している。家族の希望に応じて、早朝から迎えに行ったり、指定の病院に送り届けるなどの対応も柔軟に行っている。	一人ひとりの希望を把握して支援している。鮎の泳ぐ、大内山川周辺への散歩や山海の郷までの買い物、季節の花見や外食に出かけるなど楽しみ事も多い。また玄関先のベンチに座っての交流が、外出しにくい利用者の憩いの場になっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持されていない方がほとんどだが、トラブルの無いよう個別に支援ができています。施設訪問してくれる移動販売所での買い物「良いガス抜きになっている」との入居者からの発言通り、良い形でお金を使う機会を提供できています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を気軽に職員に頼んでいただける環境を維持できており、電話も気軽に借りることができたり、自室でゆっくりお話しできるような子機をお渡ししているなど、変わらぬ配慮と支援ができています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除、空気の入替え、季節感のある花や観葉植物の飾りつけなど、継続して実施されている。音、光、温度等は本人の希望を必ず伺い、周りの入居者の希望も合わせて調整し、対応している。迷入居者のため、廊下から見えるよう、トイレに表示プレートを貼り付けている。	大きな窓のある明るくて素敵なレイアウトの共用空間には、誰でも笑顔で迎え入れてくれる雰囲気である。季節感や生活感をとり入れた廊下には季節の花々や観葉植物が置かれている。お気に入りの場所で家族と過ごしたり、仲の良い利用者同士で、ゆったりとした時間を過ごせる居場所づくりの工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人がひしめき合い、にぎやかなのがソファ、ゆったり新聞を読んだりでき、日が当たって暖かいのがサンルームのテーブル、というように、場所ごとの特徴を入居者が理解しており、思い思いの過ごし方ができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族との相談の上で、馴染みの物を持ち込み、写真を飾るといった工夫が継続してできている。身体レベルが低下した方のため、他入居者の協力を仰ぎ、対応しやすい部屋への交換を実施するなど、柔軟に対応している。	連絡用のポストが掲げられている居室はとても明るく清潔で、家族の訪問・宿泊時にも、ゆっくり過ごしてもらえる様に配慮し、本人の意向を確認しながら、お洒落なカーテンや出窓に飾られた置物で居心地良く過ごせるように取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力で一定の生活水準を保つことを目標に、ベッドやマット、布団の選択、利用しやすさへの配慮や、ポータブルトイレの設置と撤去、部屋の扉の名札の変更など、知恵を出し合いながら、可能な限りの配慮を継続して行っている。		